

男女共同参画の視点に注目した避難所設備・運営に関する意識調査 —瑞浪市における避難所開設・運営図上訓練を通して—

A survey of Attitudes about Evacuation Center Management and Facilities from a Gender-equal Perspective

Trough the Disaster Imagination Game on Setting up and Running Evacuation Center in Mizunami City

○延原理恵¹, 三上卓², 上園智美³
Rie NOBUHARA¹, Taku MIKAMI² and Tomomi UEZONO³

¹ 京都教育大学 教育学部

Faculty of Education, Kyoto University of Education

² 徳島大学 環境防災研究センター, 元東濃地震科学研究所

Research Center for Management of Disaster and Environment, The university of Tokushima,
former Tono Research Institute of Earthquake Science

³ 名古屋大学 減災連携研究センター, 日本ミクニヤ株式会社

Disaster Mitigation Research Center, Nagoya University, Nihon Mikuniya Corporation

After a major disaster, problems from a lack of considerations for women and families with children at evacuation centers have been pointed out. Over the years, disaster victims have developed different needs for life as evacuees, such as space for their pets, and communication with people from other countries. This study is aimed at examining how best to manage evacuation centers to ensure gender-equality. The survey respondents are citizens who engage in disaster-prevention activities or are active in the area of gender equality or are supportive of women. Awareness about the importance and need of spaces for women-only and gender-segregated facilities increased in the layout plan using a school gymnasium as an evacuation center after a short lecture about evacuation centers.

Keywords : Evacuation Center, Gender Equality, Disaster Imagination Game, Necessary Facilities, Evacuees' Life

1. はじめに

これまでの大規模災害時の避難所においては、女性や子育て家庭への配慮が必ずしも十分ではなかったという問題が指摘されている。阪神・淡路大震災（1995）、新潟県中越地震（2004）の経験を踏まえ、2005年に国の防災基本計画に「女性の参画・男女双方の視点」がはじめて明記され、このような視点が持たれるようになってきた。しかし、東日本大震災（2011）においても、授乳や着替えの場所がなく、女性ということで食事準備を割り振られたという避難所があり、男女共同参画の視点からの取組みは浸透しているとはいえない状況であった。

そこで、2011年12月及び2012年9月の中央防災会議において防災基本計画が修正され、避難所での女性や子育て家庭のニーズへの配慮や運営管理の場への女性参画の推進等が位置づけられ、2013年5月「男女共同参画の視点からの防災・復興の取組指針」が発表された。これを受けて各自治体は避難所運営マニュアル策定指針を作成し、その中で男女共同参画の視点からの記述がなされるようになった。そして、自治会（町内会）等は自治体からの指針に地域の実状を合わせて各避難所の運営マニュアルを作成したり、避難所開設運営訓練が行われたりするようになった。しかし、固定的な性別役割分担意識は根強く、炊き出し訓練には婦人会（女性会）が割り振られていたり、避難所運営管理の責任ある立場には男性ばかりということも珍しくない現状にある。

本研究は、地域防災分野や女性支援・地域活動に関わる市民を対象とした防災ワークショップにおいて、男女

共同参画意識を啓発することを目的に実施した避難所開設・運営図上訓練を通して男女の意識やその実施効果を把握し、男女共同参画の視点を取り入れた市民向けの防災学習について考察する。

2. 避難所開設・運営図上訓練について

避難所開設・運営図上訓練は、「ワイガヤ・ワークショップ『自分たちでつくる避難所』」という名称で行われた。1グループ6名程度に分かれ、グループで自由に意見を交わしながら避難所に指定されている中学校体育

表1 避難所開設・運営図上訓練の概要

日時	2014年7月12日（土）
場所	瑞浪市総合文化センター
参加者	市民74人（男性23名、女性51名） （50歳未満6名、50歳代16名、60歳代36名、70歳以上16名）（防災関係14名、男女共同参画13名、女性支援団体23名、他24名）
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶 ・本日の図上訓練の説明 ・避難所開設・運営図上訓練（*） ・避難所設備・運営に関するアンケート ・避難所に関するレクチャー 避難所ってどんなところ？ どんなことを考えておけばいい？ ・避難所開設・運営図上訓練（*の見直し） ・発表・意見交換、まとめ、アンケート ・挨拶

館の図面上に避難所に必要な設備やスペースのレイアウトを書き込むというものである。途中に、避難所設備・運営に関するアンケートとレクチャーを行い、再度、避難所の設備やレイアウトを考え直すという流れで行った。アンケートからは避難所の設備・運営に関する男女の意識を、図上訓練に用いたレイアウト図からは避難所の環境づくりに対しての考えを、さらに講義後のレイアウト図やアンケートから、本プログラムの実施効果を見る。概要は表1に示す。

3. 結果

女性専用スペースについては、男女の意識の違いが見られなかったが、「男性専用の洗濯・物干し場」や「男性専用の部屋（エリア）」については、女性は女性専用と同様に男性専用の必要度を考えているのに対し、男性自身は不要と考える比率が女性よりも高かった。「女性トイレ増設」については、女性のニーズが男性よりも高く、必要度を強く感じていることがわかった。緊急救援の国際基準として知られているスフィア基準⁵⁾では、トイレ個室数の男女比は1：3とされている。「死角や暗い場所への照明の設置」も女性のニーズの方が高く、女性は平常時と同様に犯罪が発生しやすい環境に対する意識がやや高いといえる。「ペットのための空間確保」について男性は不要と考える比率が高かった。ペットも家族の一員と考え、ペットがいるから避難所に行けないというケースもあることから、男女に限らずペットに対する意識の差については今後考えていかなければいけないだろう。

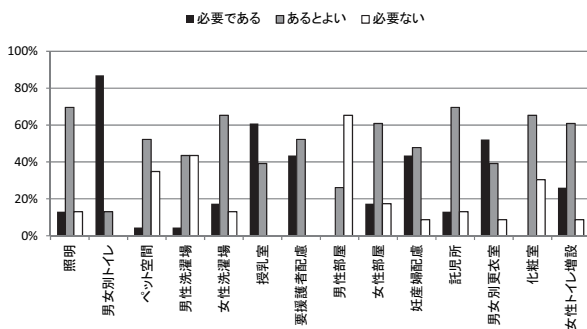


図1 避難所の設備・スペースのニーズ（男性）

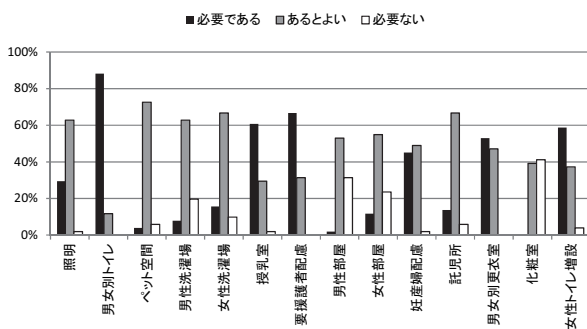


図2 避難所の設備・スペースのニーズ（女性）

男女による意識の違いが見られたのは「在宅避難者に対する支援」、「一時的に子どもの面倒を見るスタッフ配置」、「外国人避難者に対する支援」で、いずれも男性の方が女性よりも不要と考える比率がやや高かった。とくに一時的に子どもをみてるスタッフがいたら、用事を済ませることができるのだが、それがいないために動

きがとれず、生活再建に支障をきたす事例があるだけに、必要性の理解が望まれる。

避難所での役割の分担をどのように決めるのがよいと思うかという問いには「力仕事は男性、炊き出しは女性のように適性を考慮する」との回答が最も多かった。これは、適性を考慮するという文言に影響されたのかもしれないが、女性は「個人の意思によって決める」という回答が多いのに対し、男性では少なく男女の意識の違いがあらわれた。

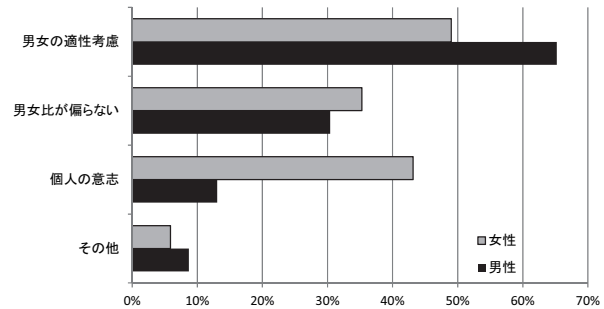


図3 避難所での役割分担の考え

アンケートと講義の後、最も多く追加されたのは、情報掲示板であった。その次に増設や配置の工夫が見られたのは女性更衣室、仮設トイレ、物資置場や配布場所、居住スペースの通路であった。いずれもレクチャーの中で取りあげられていた内容である。

3. おわりに

男女共同参画のあり方の意識には一部違いがみられた。被災経験のない市民にとって、避難所の実態を想像することは簡単ではない。過去の事例を参考に予想される問題を考える機会を持つことの有効性がわかった。

謝辞

本研究に関わる避難所開設・運営訓練（ワークショップ）は、瑞浪市まちづくり推進部生活安全課、瑞浪市男女共同参画社会推進委員会、東濃地震科学研究所地域地震防災基準に関する基本問題研究委員会の協働で実施されたものである。実施にあたり、岐阜大学大学院生の船田修平氏、京都教育大学学部の宮本由紀氏に協力いただいた。関係者および本訓練に参加いただいた市民の皆様には謝意を表します。

参考文献

- 1) 山地久美子：ジェンダーの視点から防災・災害復興を考える－男女共同参画社会の地域防災計画，災害復興研究，1，45-76，2009
- 2) 内閣府男女共同参画局：男女共同参画の視点からの防災・復興の取組指針，2013
- 3) Elaine Enarson, P.G.Dhar Chakrabarti：Women, Gender and Disaster, SAGA Publications, 2009
- 4) 東日本大震災女性支援ネットワーク研究プロジェクト担当：男女共同参画の視点で実践する災害対策 テキスト 災害とジェンダー＜基礎編＞，東日本女性支援ネットワーク，2013
- 5) スフィアプロジェクト：人道憲章と人道対応に関する最低基準，2011，http://www.refugee.or.jp/sphere/The_Sphere_Project_Handbook_2011_J.pdf